



## 第 2 章 モデル事業実施地域からの報告



## I 宮 城 県

事業開始日	平成17年10月1日
-------	------------

## 1 各モデル地域の事業の状況について

## 1) 本事業実施前の地域の状況と課題

## (1) 事業実施の前年度の分娩を取り扱う病院・診療所・助産所の状況

	分娩を取り扱う施設			
	病院	診療所	助産所	その他(自宅等)
施設数	11	9	1	
分娩数	5,534	2,438	58	9

(調査対象年:平成17年 助産所及びその他の分娩数は当該地域の出生数)

## (2) 地域の産科医療の状況と課題

## ① 行政の視点

## ○ 医師の状況

平成11年度及び平成18年度に実施した「宮城県周産期医療アンケート調査」の結果では、本県の分娩取扱医療機関の産科・産婦人科医師人数は、平成11年調査は160人、平成18年調査は123人で、37人の減少となっている。分娩件数も平成11年調査は20,236件、平成18年調査は18,030件と、2,206件減少しているが、医師1人当たりの分娩件数では、平成11年調査は126.5件、平成18年調査は146.6件と20.1件の増加となっており、医師の負担が大きくなっている。また、地域による医師の偏在も見られる。

## ○ 医療機関の状況

「宮城県周産期医療アンケート調査」結果によると、産科・産婦人科医療機関のうち、分娩を取り扱っている医療機関は、平成11年は73機関、平成18年は55機関で、18機関の減少となっている。また、分娩を取り扱っている医療機関ごとの常勤医師の平均人数は、県全体では2.2人となっているが、県北の3医療圏では平均人数は1.0人で、全ての分娩取扱医療機関が常勤医師1人体制となっている。

## ○ 仙台地域の課題

仙台地域においても、県全体と同様の傾向にあり、分娩取扱医療機関の産科・産婦人科医師人数、分娩件数も減少しているが、医師1人当たりの分娩件数は増加となっており、医師の負担が大きくなっている。

また、本県で最も多い人口割合を占める地域であり、分娩件数も本県全体の半数近くであるほか、総合周産期母子医療センターである仙台赤十字病院をはじめとした周産期医療における3次医療機関全てが当該地域にあり、他の医療圏から母体搬送、異常新生児搬送の多くを受け入れている状況にある。

## ②産科医療機関の視点

- 分娩施設の減少と産科医(実際にお産に関わっている医師)の不足。
- 仙台への一極集中。
- 極悪な労働条件。

## 2)本事業の実施状況

### (1)オープンシステム、セミオープンシステム病院概要

病院名	全病床数	産科 病床数	MFICU 病床数	NICU病床数 (診療報酬届出)	年間 分娩数	産科 医師数	助産師数
仙台赤十字病院	430	45	6	9	879	6	37
仙台市立病院	525	25	-	-	763	6	22
東北大学病院	1236	28	-	9	603	18	26
NTT東日本東北病院	187	14	-	-	402	3	15
仙台医療センター	698	40	-	-	891	7	24
東北公済病院	335	33	-	-	965	5	27

(病床数及び産科医師数:平成19年4月1日現在 年間分娩件数:平成18年 助産師数:平成18年6月現在)

### (2)オープン病院化連絡協議会の運営状況

#### ①連絡協議会の構成員

- 別添名簿のとおり

#### ②連絡協議会開催状況(開催日、協議内容等)

平成17年度

【第1回作業部会】平成17年11月22日

- 1.契約について
- 2.共通診療ノートについて
- 3.健診の検査料金について

【第1回連絡協議会】平成18年1月26日

- 1.委員長、副委員長の選出について
- 2.委員の増員について
- 3.産科セミオープンシステムの現在までの問題点について